

総合的な学習の時間と道徳科「努力と強い意志」

小学校における「オリ・パラ」についての学び

期待できる効果

●こんな子どもの姿を期待できます

- ・目標をもって粘り強く取り組む子ども
- ・興味をもってオリンピックをみる子ども
- ・生涯にわたってスポーツと関わり続ける子ども

●実践後のアンケート結果

リオオリンピックは見たか？

見た 85% 見てない 15%

1 オリンピックの魅力を調べる

総合的な学習の時間「オリンピックの魅力を探ろう」（第6学年）の単元で、日本や外国のオリンピック選手の中から一人を選んで、調べ活動を行いました。その選手の活躍や生き方や考え方から感じたことをまとめ、友達や保護者にポスターセッション形式で伝える発表会をしました。その単元の中では、北京オリンピック金メダリスト藤本選手を招聘し、直接、エピソードや思い、生き方や考え方などについて取材し、競技の体験を一緒に行うことで、一流の選手の姿から感じ取る学習をしました。本物の金メダルに触れ、大きな感動を味わっていました。また、その内容と関連させて、道徳科や体育科に教科横断的に取り組み、それぞれの学習がより効果が高まるようにしました。第5学年「パラリンピック博士になろう」の学習とも系統的に学習課程に位置付けることで、子どもの意識をつなげるようになりました。

2 道徳科の資料にオリンピック

「個性の伸長」（第3学年）や、「希望と勇気、努力と強い意志」（第4学年）の資料に、オリンピック金メダリストの内村選手や高橋選手を扱いました。展開段階では、選手の姿や考え方を共感的に活用し、終末段階では自分達が頑張ったよさを運動会等と関連させて振り返らせました。また、教科横断的に持久走大会や総合的な学習の時間と関連させました。



ココがポイントです！

- ①教科横断的に取り組むことで、それぞれの教科等の効果が上がります。
- ②学校全体で6年間を通して教育課程に位置付けることで、子どもの意識をつなぎ、継続的に育てることができます。

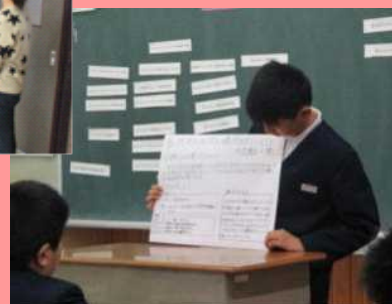
総合的な学習の時間の授業の様子



▲調べ活動の様子



▼発表の様子



藤本選手との交流の様子



▲▶金メダルに触れて目を輝かせる子ども



▼ソフトボールの交流試合



道徳科「努力と強い意志」の授業の様子



子どもの変容

オリンピック・パラリンピックに関心があるか【全校対象】

